

■〈報道用企画案〉土地・災害リスクの専門家 神山健氏監修

5分で確認「我が家の浸水リスクチェック」

ハザードマップだけでは分からないリスクも含め、自宅や周辺環境について、一度確認してみましょう。

|                          |                                                    |
|--------------------------|----------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> | 1 自宅の「洪水ハザードマップ」を確認したことがある                         |
| <input type="checkbox"/> | 2 自宅周辺の「内水」に関するハザードマップや浸水想定を確認したことがある              |
| <input type="checkbox"/> | 3 自宅や周辺地域で過去に浸水被害が発生していないか確認したことがある                |
| <input type="checkbox"/> | 4 自宅の敷地が周辺道路より低くなっていないか、周囲に水が集まりやすい場所がないか確認したことがある |
| <input type="checkbox"/> | 5 自宅の火災保険に「水災補償」が付いているか確認したことがある                   |
| <input type="checkbox"/> | 6 玄関や窓だけでなく、「床下」や排水口など住宅への水の侵入経路を確認したことがある         |
| <input type="checkbox"/> | 7 大雨時の避難場所・避難経路・避難するタイミングを家族で確認している                |

※本チェックリストは、自宅の浸水リスクを簡易的に確認するためのものであり、安全性を判定・保証するものではありません。



チェックのつかなかった項目は、以下を参考に見てみましょう

|                                                                                                                                                                                             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>1 洪水ハザードマップ 未確認のあなたは、まず「重ねるハザードマップ」で自宅の住所を検索しましょう</b></p> <p>国土交通省のハザードマップポータルサイトで自宅の住所を検索すれば、想定される浸水リスクを地図上で確認できます。「知らなかった」をなくすための最初の一步です。</p>                                       |
| <p><b>2 内水ハザードマップ 未確認のあなたは、自治体ホームページで「内水ハザードマップ」を確認しましょう</b></p> <p>洪水ハザードマップは河川氾濫が対象で、下水道の排水能力を超えて起こる「内水氾濫」は別扱いです。内水版がない場合は、自治体が公表する浸水実績図や道路冠水注意箇所なども確認しましょう。</p>                          |
| <p><b>3 過去の浸水被害 未確認のあなたは、自治体のホームページなどで「浸水履歴・浸水実績」を確認しましょう</b></p> <p>その土地が過去に浸水した記録は、想定区域図だけでは見えない重要なリスク情報です。自治体によっては、過去の浸水履歴や浸水実績図を公表しています。長く住む近隣住民や町内会に聞くことも、地域の状況を知る一つの手段です。</p>         |
| <p><b>4 土地の高低差 未確認のあなたは、晴れた日に自宅周辺を歩いてみましょう</b></p> <p>道路より敷地が低い、周囲より窪地になっている場所は、大雨時に水が集まりやすいポイントです。国土地理院「地理院地図」で標高を確認するとともに、「治水地形分類図」で旧河道や後背湿地など土地の成り立ちも確認してみましょう。</p>                      |
| <p><b>5 火災保険の水災補償 未確認のあなたは、今すぐ保険証券を取り出しましょう</b></p> <p>「火災保険に入っているから安心」とは限りません。水災補償の有無や補償内容、支払条件などは契約によって異なります。証券が見当たらない場合は、保険会社や代理店に確認しましょう。</p>                                           |
| <p><b>6 床下・排水口からの浸水経路 未確認のあなたは、「玄関以外」の弱点を洗い出しましょう</b></p> <p>水は玄関や窓だけでなく、基礎まわりの換気部分やトイレ・お風呂などの排水口から侵入する場合があります。止水板や水のう（簡易水のう）の用意を検討したり、新築やリフォームの際には、床下への浸水を抑える機能を備えた建材を検討することも、対策の一つです。</p> |
| <p><b>7 避難場所・経路・タイミング 未確認のあなたは、家族で「警戒レベル」と行動をセットで決めましょう</b></p> <p>「警戒レベル 3『高齢者等避難』で、避難に時間のかかる家族は避難を開始」など、家族で避難のタイミングを決めておきましょう。「マイ・タイムライン」を活用し、避難場所や経路、連絡手段もあわせて確認を。</p>                   |